

# セルクル・きほく

～紀北支援だより～



和歌山県立紀北支援学校  
教育支援部  
No.8 H.31年3月

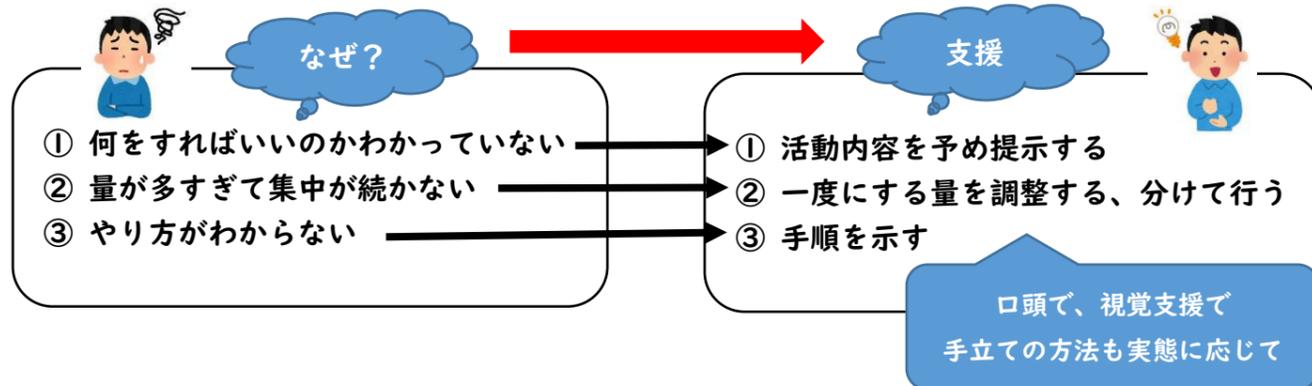
※セルクルとはフランス語で「輪」を意味します。学校や地域とのつながりが大きな輪となり連携していくようにという願いをこめています

個に応じた支援のために

## ◆「なぜ？」が違えば、「支援」が違う

子どもがかかえる課題や困りを魔法のように解決できる方法はありません。なぜなら、子ども達は一人一人違うからです。同じ障害名であっても実態はそれぞれです。また、子ども達の置かれている環境もそれぞれ違います。大切なのは、その実態（背景因子も含め）を的確に把握し、個に応じた視点で支援や指導を組み立てて行くことです。

例えば・・・「活動に参加できない」という子どもに対してどう支援するか？



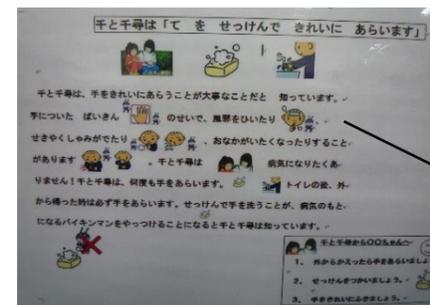
## 自立活動の取組・教材紹介

自立活動は「実態把握」から始まります  
活動・教材あいき、ではないことに留意することが大切です！

教材名	ソーシャルストーリー
自立活動の区分	環境の把握(2)感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること 人間関係の形成(1)自己の理解と行動の調整に関すること
ねらい	・状況に応じた行動について学ぶ ・期待されている社会的行動（ソーシャルスキル）を身につける
ポイント	・目には見えない「暗黙のルール」を理解することが難しい認知の特性がある子どもに対して、ルールを「見える化」して理解につなげることができる。 ・「わかる」状態にすることで、行動調整へつなげられる。 ・話して聞かせる、その都度注意する、という対応では情報が残らない。 ・経験の中で自然と身につく、他の場面で応用することが難しい特性をもつ子どもに対し、本人にわかるようにルールを伝えることでソーシャルスキルの向上に結びつける。



<マラソン>  
風邪をひかない元気な体を作るためにマラソンをします。  
12月になるとマラソンが始まります。朝の会の後にマラソンがあります。  
1年生から6年生までみんなで一緒に走ります。  
マラソンはかけっことは違います。かけっこは早く走ってゴールします。マラソンはゆっくりゆっくり走ります。(中略)  
しんどくなったら、走らずに歩いてみます。(以下、省略)



<千と千尋は手をせっけんできれいに洗います>  
千と千尋は、手をきれいに洗うことが大事と知っています。  
手についたばい菌のせいで、風邪をひいたり、お腹が痛くなったりすることがあります。(中略)  
せっけんで手を洗うことが、病気のもとになるばい菌をやっつけることになると、千と千尋は知っています。

## ◆「なぜ？」=実態把握(アセスメント)

子どもに関する情報収集作業（総合的に）

\*アセスメントは、個に応じた目標設定をするための実態把握のことです。

\*得意なこと（強み）と、苦手なこと（弱み）を明らかにします。

\*苦手なこと（弱み）に注意が行きがちですが、得意なこと（強み）も支援や手立てのヒントになる、大切な情報です。

\*特性や環境に配慮して支援や指導方法を選定していくことが大切です

種類	フォーマルアセスメント（客観的）	インフォーマルアセスメント（主観的）
定義	検査具を使った、やり方や評価の仕方が決められた（標準化された）アセスメント	検査具がない、支援の場面での観察や聞き取りによりアセスメント
概要	・ある程度のトレーニングを受けると、一貫した視点で本人の特性を把握することができる ・普段の状況に左右されない場面でのアセスメント	・何となく観察したり、聞き取りをするのではなく、ポイントを絞ってアセスメントをする必要がある ・継続的に実施することが重要

今年度もいよいよ終わりますね。  
来年度も、紀北支援学校のセンター的機能をどうぞご活用ください。  
1年間、ありがとうございました。



<ご相談は・・・>

紀北支援学校 教育支援部 TEL 073-479-1356  
相談メール kihoku-shien@wakayama-c.ed.jp